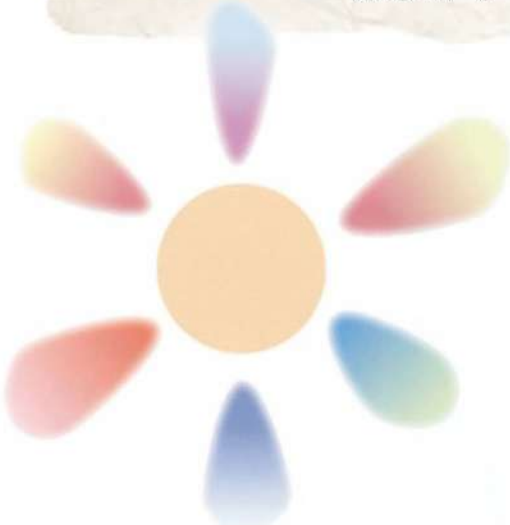


健康教育

— 健康なくして教育はありえない —

- 
- ◎ 園舎の清掃について 榎本 利男
 - ◎ 保育園・幼稚園等における 箕形 崇史
室内環境の改善
～ダニ・カビ対策～
 - ◎ 楽しい食事 ～新しい食育～ 江川 正雄



「健康教育」

——健康なくして教育はありえない——

1911年、河合グループ創業者である薬学博士・河合亀太郎がかかげた企業理念です。



薬学博士・河合亀太郎

こどもたちのすこやかな成長を願い、より一層お役に立てる情報のご提供・ご提案を目指し、発刊致しております。これからも、創業者・河合亀太郎の理念「健康教育」を大切に伝え続けてまいります。今後ともご愛読のほどよろしくお願い致します。

目 次

3	園舎の清掃について
7	保育園・幼稚園等における室内環境の改善 ～ダニ・カビ対策～
11	楽しい食事 ～新しい食育～
15	あらまし

園舎の清掃について

私立ちどり幼稚園
園長

榎本 利男



昔ながらの温かみ ある木造園舎

当園は東京都のほぼ中央、杉並区に位置し、今年で創立52周年を迎える歴史の長い幼稚園です。東京にありながらも、広々とした園庭が特徴の当園では、日々こどもたちがのびのびと園庭を駆け回り、明るく健康的に生活しています。

園舎は昭和28年に建築された建物で、増築・改築を重ねて現在に至っていますので、昨今良く見るモダンな園舎ではなく、昔ながらの温かみのある木造建築です。

私自身も深い思い出があるこの園舎は、歴史を感じさせるという理由からか、映画のロケ地として何度か使用されました。昨年の夏にも某映画のロケ依頼があり、夏休みの間に撮影が行われました。



広々とした園庭



外部清掃会社への一部作業 依頼によって出来たこと

そのような園ですので、日々の園舎の手入れには、人一倍気を使っていると自負しています。

こどもたちが日々過ごし易いように清潔で家庭的な雰囲気を維持する為に、職員も皆意識高く清掃に取り組み、一部外部の清掃会社にも入って頂きながら、より良い環境作りに努めています。

当然の事ではありますが、全てを外部に任せるのではなく、職員と協力しながらの清掃作業になります。具体的な作業の例としては、教室の清掃は必ず職員が行い、職員の負担の多い共用のスペース（廊下・階段・ホール・玄関等）の清掃についてのみ、清掃会社に月2回のペースで作業をお願いしています。

かつては学期末になると職員だけでなく、保護者の皆様にもお願いして行っていた大掛かりな大掃除も、部分的に外部に任せた事で、職員や保護者の皆様の負担が随分と軽くなりました。

保育は勿論の事、教室の管理についても、基本的には各担任に全て任せています。各教室は、各担任の教育への姿勢が現れるいわば「聖域」です。従って、担任の自主性を高める目的もあり、普段の清掃は自分達で行います。

当番制で行っていた共用スペースの清掃負担を外部依頼により軽減させる事で、各教室の美化により力を入れるよう指導しています。

実は、「こどもたちの環境は私共自らで良くすべきである」という信念が以前はありましたので、園舎の全ての清掃は現場の職員だけで行なうのが当然だと考えていました。



業者による廊下の清掃



業者による階段の清掃



業者によるホールの清掃



業者による水飲み場の清掃

従って、外部の清掃会社に依頼する事には大きな抵抗があった訳です。とは言ったものの、園児降園後に行なう各教室だけでなく、共用のスペース全体の清掃や、保護者の皆様に協力頂いての学期末の大掃除はかなりの負担で、隅々まで清潔な状態を維持する為には相当な労力を要したのも事実です。

「清掃業者に任せると、職員が清掃を行わなくなるのではないか?」「自分達で出来る事を他人に任せて良いのだろうか?」「掃除くらい自分達で行なわなくてはいけないのではないか?」など、様々な葛藤がありました。

しかし、実際に行なってみると全ての心配が全くの杞憂に終わりました。職員の清掃に対する意識は、以前よりもさらに高まっていますし、何よりも保育にかける時間や情熱が高まっている事が一番の成果だと感じています。逆に今まで自分達で行なう事に拘

っていた事が、実は大変難しいものであった事に気付かされました。

昔に比べると現在の職員の仕事量は格段に増えていますので、より良い保育を行なうには、それ相応の時間が必要であった訳です。結果として、職員のみで行っていた清掃の一部を外部に依頼する事で、役割分担が明確になり、保育と清掃の両方が高いレベルで実践出来るようになったと実感しています。

物を大切に扱う大切さを子どもたちにしっかりと伝えたい

冒頭にも書きましたが、当園の園舎は決して新しくモダンな作りではありませんが、長年大切に大切に使って来た歴史ある建物



職員による教室の清掃



丁寧にふき掃除



隅々まできれいに



きれいな教室

です。こんな時代だからこそ余計に、毎日清掃に励み丁寧に使う事で、物を大切に扱う大切さをこどもたちにしっかりと伝えたいと考えています。

昔から何事においても基本は「一に挨拶、二に掃除」と言われます。人々が気持ち良く生活する為に、清掃は大変重要で尊い事だと確信しています。だからこそ日常生活の中でこどもたちに確実に感じてもらいたいのです。

また、外部の方が一緒に園舎を管理して頂ける事で、色々気付くこともあります。今では、職員一人一人の清掃意識も大変高まり、以前よりもさらにしっかりと園内の整理整頓が出来るようになりました。

今までの常識に囚われず、園舎清掃の作業を外部清掃会社との「分業」或いは「共存」という仕組みを取り入れる事で、より良い保育の実践が実現出来たと自負しています。

園舎が日々清潔で整理整頓された状態を見るに付け、深い満足感を覚える今日この頃です。

これからも引き続き、こどもたちが明るく健康的に過ごせる環境作りを、高い意識を持って実践していきたいと思っています。



業者と職員との細部に渡る打ち合わせ



廊下もきちんと整理整頓

保育園・幼稚園等における 室内環境の改善 ～ダニ・カビ対策～

中野区役所
保健福祉部

箕形 崇史



アレルギー疾患を持つ人は、花粉・ダニ・カビ・紫外線等々で一年中気の休まる時がありませんが、今回はアレルギー児の健康管理と施設（園）内の環境について考えてみたいと思います。



アレルギー性疾患対策

1. アレルギー性疾患の急増

わが国では、ぜん息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患を持つ人は3人に1人の割合となり、小児ぜん息に関しては、近年明らかな増加傾向が続いています。（表-1）

2. 室内環境

アレルギー性疾患の発症メカニズムについては、十分解明されたとは言えませんが、増加要因のひとつとして、室内環境の悪化があげられています。コンクリート住宅やアルミサッシが普及し、建物の気密化が進む一方、ストーブ等の使用によって室内に多量の結露が発生し、チリダニやカビが繁殖しやすい状態となっています。

さらに、建材などから発生する揮発性有機化合物は、化学物質過敏症との関連が指摘されています。

3. 室内のアレルゲン

保育園・幼稚園等の室内塵（ハウスダスト）には、布・綿ほこり、食べ物のカス、人のアカ、ダニ、カビ、花粉などが含まれています。この中で最も重要なものはチリダニ（人を刺すツメダニ・イエダニとは別）で、小児気管支ぜん息の90%がチリダニ過敏ぜん息であり、また、アトピー性皮膚炎のアレルゲンとしても注目されています。

室内環境の改善では、いかにチリダニを減量するかがポイントになります。また、チリダニは、虫体より糞や死骸の破片がアレルゲンとして強い活性を持つことも認識しておく必要があります。

4. 室内アレルゲンの除去

ぜん息患者宅の居室からハウスダストを除去することによって、ぜん息発作が顕著に減少することが報告されています。施設（園）内のダニ・カビや花粉（3か月以上アレルゲン活性がある）などを除去することは、園児、ことにアレルギー疾患を持つ子どもの健康管理・発病予防対策として非常に重要な課題です。

施設内の湿度管理や清掃、寝具類の乾燥など、それぞれ工夫して施設（園）内のアレルギーの除去に努めてください。（表-2）

なお、チリダニのアレルゲン簡易測定キットが市販されています。使用方法等について管轄の保健所と相談してください。

◆表-1 全国調査におけるアレルギー疾患有症率（％） 厚生労働省（平成8年）

乳幼児 （0～5歳）	ぜん息	ぜん鳴※	アトピー性 皮膚炎	何らかの アレルギー疾患
男	5.5	14.8	10.2	30.8
女	4.2	11.2	10.4	25.8
全 体	4.9	13.0	10.3	28.3

※ぜん鳴…気道がせまくなったために、呼吸によって生ずる「ゼイゼイ」・「ヒューヒュー」というような音

◆表-2 保育園・幼稚園などにおけるダニ・カビ対策

<1.ダニ対策>

ダニの生育条件	温度25～30℃、湿度60～80%で盛んに繁殖 餌はカビ、フケ・アカ、食べ物のカスなど
チリダニの分布	室内のホコリ：じゅうたん、畳、布製ソファ、カーテン、ぬいぐるみ、家具のうしろなど 水分の多い場所：寝具、エアコンのフィルター、北側の壁・窓等の結露発生場所など
ダニの除去	室内掃除：掃除機は排気口からハウスダストを排出しない機種を選定し、丁寧に掃除機をかける（20秒／m²以上、フローリングの場合は埃が舞い上がらないようモップ等でふき取ってから掃除機使用） カーテン等には専用のノズル使用 掃除機を使用時は窓を開放する ダニ繁殖のピーク時（梅雨明け）に大掃除を実施すると良い 寝具類：乾燥させる（花粉飛散時期に布団を干す際は、布団干し袋に入れて干すなど注意が必要） 乾燥後丁寧に掃除機をかける（表面からダニの死骸・糞等を除去） シーツ等をまめに洗濯する 湿度除去：水蒸気の発生を抑える（暖房機等、鉢植え、加湿器、水槽、洗濯の室内干等） 発生した水蒸気を排気する（浴室・台所⇒2つ以上の換気口で空気の流れを作る） 室内の湿度管理（湿度計を使用して60%以内に管理する） 室内の乾燥（浴室・台所の乾燥、発生した結露（窓・壁）を拭く） ダニ駆除剤：人体に対する安全性に考慮してできるだけ使用しないこと

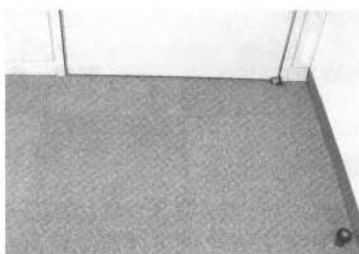
<2.カビ対策>

カビの分布	多 湿 の 場 所 : 浴室、洗面所、押入れ、物置、地下室、結露しやすい壁・窓、観葉植物の土、エアコンのフィルター、加湿器など 栄養分の多い場所 : ハウスダスト、浴室（アカ・石けんカス付着により）など そ の 他 : 空中を浮遊
カビの除去	湿 度 除 去 : 水蒸気の発生を抑える（暖房機等、鉢植え、加湿器、水槽、洗濯の室内干等） 発生した水蒸気を排気する（浴室・台所⇒2つ以上の換気口で空気の流れを作る） 室内の湿度管理（湿度計を使用して60%以内に管理する） 室内の乾燥（浴室・台所の乾燥、発生した結露（窓・壁）を拭く） 清掃・洗濯 : 室内の埃（ハウスダスト：食べ物のカス、フケ・アカなど）、浴室の石鹸カス、エアコンのフィルター、畳・床上的じゅうたん除去、寝具・マットの乾燥・洗濯 カビ取り剤 : 次亜塩素酸ナトリウムを主成分とする塩素系剤を使用（使用時には十分換気してゴム手袋を使用。酸性タイプの洗浄剤とは混合は厳禁） そ の 他 : カビの発生しやすい場所の発生防止対策（押入れなどにすのこを使用して空気の流れをつくる。結露の生じやすい壁側に家具を置かないなど）

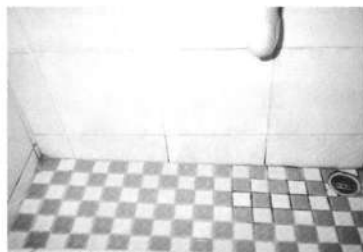
◆ダニ・カビの注意箇所例



エアコンのフィルター



じゅうたん



浴室・洗面所・台所等



ぬいぐるみ



室内環境の再点検

近年、インターネットが急速に普及し、誰もが健康に関して詳細な情報を入手することができます。そのため、園児の父母の「健康ニーズ」が極めて高くなっています。

施設（園）の室内環境をすぐにでも再点検し、すべての園児の健康に配慮した室内環境づくりに取り組んでいただくことを期待します。（表-3）



◆表-3 アレルギー疾患管理・カレンダー

1月～2月 	結露→換気による発生防止、発生した結露は乾いた布で拭く 空気の乾燥→保湿を目的とするスキンケア スギ花粉の飛散→マスクなどの花粉対策準備
3月～4月 	転居→引越作業によるダニ・カビの飛散防止、かかりつけ医づくり 入園などによる生活環境の変化→連絡・協力体制の確認等
5月～6月 	紫外線→紫外線カットを目的とするスキンケア 梅雨→ダニ・カビ対策：浴室・エアコンフィルターの清掃、寝具乾燥等
7月～8月 	発汗→素肌を清潔に保つ ブタクサ花粉の飛散→マスクなどの花粉対策準備
9月～10月 	ぜん息発作が最も悪化しやすい時期 →ぜん息発作対策、冷え込みへの準備、ハウスダスト除去、冬物寝具の手入れ →運動会・遠足などによる心身の疲労、夏の疲労も出てくる
11月～12月 	暖房機・加湿器の使用→換気、エアコンフィルター・加湿器の清掃 大掃除→清掃によるダニ・カビの飛散防止 インフルエンザ流行→予防：手洗い・うがい、早期治療：医師の指示

楽しい食事～新しい食育～

多摩府中保健所
管理栄養士

江川 正雄



「朝ごはんが、おいしい。」
「お昼は幼稚園や保育園のお友だちと、みんなでもっと楽しくお食事をします。」
「夕食は、お母さんと一緒にお食事の準備のお手伝いをします。」
こんな当たり前のことがなかなかできないのが、今日この頃ではないでしょうか。

2000年3月、国は21世紀における国民健康づくり運動＜健康日本21＞を定め、生活習慣病及びその原因となる生活習慣等の国民の保険医療対策上重要となる課題について2010年度を目途とした目標を具体的に提示しました。

この中で特筆すべき目標があります。

『1日最低1食、きちんとした食事を、家族等2人以上で楽しく、30分以上かけてとる』

これは、子どもの時から着実に実行していきたい目標です。

そこで今回は、「楽しい食事」をキーワードに、食育について考えてみたいと思います。



肥満の増加

糖尿病、高血圧症、心臓病、高脂血症のリスクを高める重要な因子の一つとして「肥満」がとりあげられています。その上で、健康日本21の肥満に関連する目標が2つ設定されました。

◆自分の適性体重を認識し、体重コントロールを実践している人の増加

◆自分の適性体重を維持することのできる食事量を理解している人の増加
の2点です。

2002年の国民栄養調査の東京都分を見ると、

男性では、40歳代で「肥満」の割合が42.3%と高く、30歳代、50歳代、60歳代においても30%を超えています。

女性では、20歳代、40歳代で「やせ」の割合が20%を超え、一方、50歳代、60歳代、70歳代で「肥満」の割合が20%を超えています。

このような現状からも、子どもの頃からの肥満予防の対策として、「決まった時間に3回の食事をする」、「色々な食品を取り混ぜた

バランスのよい食事をとる」、など適切な食生活をする習慣を身につける大切さがわかります。

＜資料：肥満の判定＞

肥満度の判定には国際的にも使われているBMI《ボディ・マス・インデックス》や、体脂肪を参考にしてください。

◆BMI=体重(Kg)÷身長(m)÷身長(m)

例えば身長160cm、体重50kgの人では、 $50 \div 1.6 \div 1.6 = 19.5$ と計算します。

BMI	判定
19.8未満	やせ
19.8以上～24.2未満	標準
24.2以上～26.4未満	過体重
26.4以上	肥満

◆体脂肪

市販されている体脂肪計等の電気抵抗による測定方法が、一般的に使われています。ただし、皮膚に汗がついていたり、食事直後で体内の水分量が多くなっていたりすると、値は低くなるため測定条件には注意しなくてははいけません。

判定	男性(全年齢)	女性(6～14歳)	女性(15歳以上)
軽度肥満	20%以上	25%以上	30%以上
中等度肥満	25%以上	30%以上	35%以上
重度肥満	30%以上	35%以上	40%以上

朝食の欠食

朝食の欠食が少しずつ増えています。

2002年の国民栄養調査結果では男性で11.6%、女性で7.9%の人が朝食を欠食していました。

また、東京都府中小金井保健所が平成11年に子どもたちの朝食の摂取状況を調査した結果からみすと、

3歳児では、「ほとんど毎日食べる」90.1%、「1週間に4～5回」5.9%、「1週間に2～

3回」1.9%、「ほとんど食べない」2.2%でした。

(社)日本小児保健協会が平成12年に調査した幼児健康度調査でも、「週に1～2回しか朝食を食べない」3歳児は2.0%でした。

人が健全な生活を送る為には、朝食から1日のエネルギーの3分の1を摂取する必要があります。朝食を欠食すると、1日の食生活のリズムが乱れるとともに、栄養素の摂取量減少にもつながります。朝食を必ずとする習慣をつけるようにしましょう。

食事から子どもの健全な育成を

「食べる」という行為は、色々な状況や場所、あるいは人との関わりの中で、家族と一緒にいる時は家族との食事、幼稚園や保育園に行けばお友達と一緒にの食事など毎日営まれます。お友達と一緒にあれば、お弁当や給食を食べるだけで楽しいと感じていることでしょう。

お腹がすくという感覚を持つこと、季節ごとの食材に関心を持つこと、誰かと一緒に食事をする、食事での会話があること、これらは何も特別のことではありません。このような行動が普通にできる環境が子どもの健全な育成につながります。

楽しく食べる子どもに

2004年3月、厚生労働省は「保育所における食を通じた子どもの健全育成(食育)に関する取組の推進について」の通知を保育園あてにしました。

この中に、「楽しく食べる子どもに成長していくための5つの姿」が書かれています。

子どもにおいて楽しく食べることは、食欲や健康状態、食事内容、一緒に食べる人、食事の手伝いといったことに関連していて、食生活全体の良好な状態を示す指標の1つと考えられます。具体的には以下の項目です。

1. お腹がすくリズムがもてる子どもに

子ども自身が「お腹がすいた」という感覚がもてる生活を送ることが必要です。子どもは十分な遊びを通して空腹感と食欲を感じ、それを満たす心地よさのリズムを体験的に獲得していきます。これが、生活リズムの基本的な流れの確立につながっていきます。

2. 食べたいもの、好きなものが増える子どもに

子どもが新しい食べ物に興味や関心を持ち、食べてみようとする試みることのできる環境が必要です。「嫌いなものでも残さず食べなさい」というのではなく、好きなものを増やしていくことは、慣れないもの嫌いなものに挑戦することにつながっていきます。

3. 一緒に食べたい人がいる子どもに

子どもは人とのかかわりの中で、人に対する愛情や信頼感が育ってきます。一緒に食べたいと思う親しい人がいる子どもに育つような環境が必要です。みんなで食事を準備し、みんなで一緒に食べ、みんなで食事を楽しむという集いが体験できる機会を設けましょう。

4. 食事づくり、準備に関わる子どもに

子ども自身が食事をはじめ、食べる行為を本当に楽しく、待ち望むものであるような体験を積むことが必要です。食事をつくることや食事の場を準備することなどと結びつけることで、食べることは生きる喜びにつながっていることに気づかせていきましょう。

5. 食べ物を話題にする子どもに

大人や友だちと食事を共にする中で、子どもは食べ物を話題にしていきます。食べるという行為が食材の栽培など、いのちを

育む営みとつながっていることを実感できる体験も大切でしょう。また、自分で作ったものを味わい、身体や気持ちを大切にし、そして、生きる喜びにつなげることができるようにしたいものです。

地域活動栄養士や管理栄養士実習生と行う新しい食育

保健所では、楽しく食べる子どもの姿をつくるために、「食育」の実践活動を地域の幼稚園や保育園、小学校に出向いて、紙芝居・エプロンシアター・ペープサート・寸劇などを行なっています。

まずは、「食事は楽しく食べる」という意味をよく理解することからはじまります。例えば、「朝ごはんを食べよう」というテーマであれば、朝ごはんを食べる為には「朝早く起きる」、そのためには「夜早く眠る」、そして「お母さんに朝食を作ってもらいましょう」という流れになりがちです。

これは、「楽しく食べる子どもに成長していくための5つの姿」に照らし合わせてみると、方向の違いに気づかれることと思います。「朝ごはんを食べると、パワーがでるぞ」とか「朝ごはんの元気の秘訣」など、朝ごはんを食べることのメリットを子どもに理解させるといったような、プラス要因を高められるように方向付けすることになっています。

身近な題材を活用して、食育の実践を

都会では、プランターに野菜の苗を植えて、作物のできる過程を体験しながら、野菜に親しむ活動を実践している保育園が増えていきます。収穫された野菜を活用したクッキング保育も子どもに積極的に参加させなが

ら実践しています。小さな苗が少しずつ生長していく過程を観察して、食べられる大きさになれば収穫する、という体験が、地域の特徴や食文化との関係を自然に学ぶことができることにつながります。

そ・ら・に・た・こ

加工食品は、外から見ただけではどのようなアレルギーを起こす食品（原材料）を含んでいるか分かりにくいものです。容器で包装されている加工食品に、とても重いアレルギー症状を起こしたことが報告されている食品が含まれている場合には、量の大小にかかわらず原材料名を表示することになりました。（平成13年4月1日以降に製造や加工、輸入されるもの。）表示が「表示が義務付けられている（5品目）」原材料はつぎの食品です。

そ……そば
ら……落花生
に……乳製品
た……卵
こ……小麦粉



その他に、「表示が推奨されている原材料（20品目）」としては、あわび、いか、いくら、えび、オレンジ、かに、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、鮭、鯖、大豆、鶏肉、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、バナナ、ゼラチンがあります。

良い食環境をつくること

「食育」は子どもにとって良い食環境をつくることでもあります。

- 1.新鮮な食材を利用して、
 - 2.十分に過熱して、
 - 3.同じ食品を繰り返し使わない、
- などバランスのとれた食生活が大切です。

卓袱台（ちゃぶだい）で 楽しい食事

昔からある卓袱台が今、若い人の間で流行っています。

丸くなって食事をとることにより、四角い食卓と違って視点が均等になり、そこに優しさが生まれます。おのずと会話ははずみます。小さい子どものそばで食事の手助けもしやすい事でしょう。

また、色々なおかずを自分の気に入った器に取り分け、お腹いっぱいになる量を経験から学ぶことなどでも良い食習慣が備わります。

「いただきます」 「ごちそうさま」

これまで食育について述べてきましたが、具体的な実践方法の前に、食事の前の「いただきます」、食事の後の「ごちそうさま」という言葉が、食事の際のマナーとして自然な形で発声されるようになることがまず原点ではないでしょうか。

その意味からも『1日最低1食、きちんとした食事を、家族等2人以上で楽しく、30分以上かけてとる』…このことは、現在の「楽しい食事」をすすめる上でも大切なことなのです。

身近な事から、普通に、自然に実践していくことで、子どものよい食習慣づくりを目指しましょう。

■執筆者紹介

榎本 利男（園舎の清掃について）

早稲田大学卒業。（株）三省堂に入社した後、1971年より私立ちどり幼稚園に勤務。1981年ちどり幼稚園園長に就任。1983年より東京都私立幼稚園連合会理事も勤める。

箕形 崇史（保育園・幼稚園等における室内環境の改善 ～ダニ・カビ対策～）

1974年、東京農業大学大学院卒業。同年、東京都衛生局に入局。中野保健所、中野区保健福祉部保健計画課等を経て、現在中野区保健福祉部健康づくり分野に勤務。

江川 正雄（楽しい食事 ～新しい食育～）

1969年、服部栄養専門学校を卒業後、病院勤務にて子どもから大人まで幅広い栄養管理を行う。1982年管理栄養士として都立病院勤務後、現在管理栄養士・栄養指導員として多摩府中保健所に勤務。

■協力園

ちどり幼稚園（東京都杉並区）・みふじ幼稚園（東京都国分寺市）＜50音順＞

■「健康教育」あらまし

こどもたちのすこやかな成長を願って創刊された季刊誌「健康教育」。

1956年の創刊以来、今年2005年に50周年を迎えました。これからも、創業者・河合亀太郎の信念を伝え続けてまいります。

読者対象／日本全国の小中学校・幼稚園・保育園の学校長や園長を始めとする先生方・保健主事・養護教諭・給食関係者。その他、文部科学省・都道府県教育委員会・団体など。

平素より「健康教育」をご愛読頂きまして、誠にありがとうございます。

今回150号では、園舎等の衛生管理や、新しい食育について取り上げました。皆さまの実践されている健康教育の参考としていただけたら幸いです。

ご覧になりたい内容やテーマ、また各園・学校紹介（例：当園では、健康教育の一貫として、このようなことを行っています等）、その他ご意見・ご感想がありましたら是非お聞かせください。編集部では、今後もよりよい「健康教育」を編集してまいりますので、ご協力いただきますようよろしくお願い致します。なお、お問い合わせは以下の連絡先までお願い致します。

お問い合わせ・ご連絡先

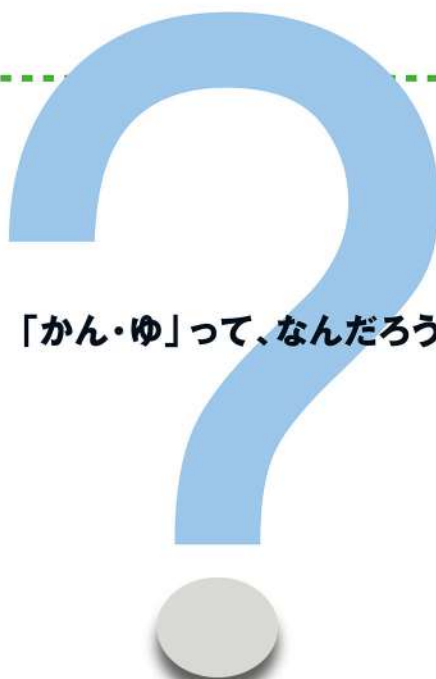
河合薬業株式会社 「健康教育」編集部

〒164-0001 東京都中野区中野6丁目3番5号

TEL：03-3365-1156（代） FAX：03-3365-1180

E-mailアドレス：genkikko@kawai-kanyu.co.jp

ホームページアドレス：http://www.kawai-kanyu.co.jp



「かん・ゆ」って、なんだろう。

それは「元気っ子ビタミン」。



カワイ肝油ドロップC

ビタミンA+D+Cが
入っています。



カワイ肝油ドロップM

ビタミンA+D+カルシウムが
入っています。